澤井 志保（さわい しほ）

外国語学部 准教授
学術博士／東京外国語大学大学院

ホームページ URL
なし

## 主な研究業績

■Sawai, Shiho & Christine, E. Bose. 2020. "Transnational Domestic Workers' Cultural Activism Online:The case of an Indonesian Islamic-writing Group in Hong Kong" International Journal of Japanese Sociology 29: 88-106.

■澤井志保（2018 年）．香港でグループ活動に参加した経験を持つインドネシア人家事労働者の帰国後－起業と社会資本、ジェンダー規範－．インドネシア・ニュースレター第 98 号、PP.28-35.

■澤井志保（2017 年）．シンガポールの光と影－この国の映画監督たち－．天理大学南方文化研究会『南方文化』第 43 輯、PP.127-131.

■澤井志保（2016 年）．『イェムじゃない』－香港で働くインドネシア人家事労働者の「つながりの平等」による主体性．京都大学東南アジア研究所『東南アジア研究』第 53 巻2号、PP.244-278.

キーワード　インドネシア文学、国際移住労働、地域研究

研究テーマ Research theme

# 香港で働くインドネシア人家事労働者の社会運動

## 概　要 Overview

現在、アジア域内での家事労働者の移住労働の拡大により、香港が国際移住家事労働者（殆どが女性）の社会運動の一大拠点となっている。多くのアジア諸国では外国人の非熟練労働者が社会運動に参加することは困難であるが、香港は、東アジア有数の外国人家事労働者受入地域であるとともに、外国人労働者を含めたすべての居民に対して、団結権と団体交渉権を保障していることが、外国人の非熟練労働者による社会運動を可能にした。こうして香港では、二大多数派であるフィリピン人（約 17 万人）と、インドネシア人家事労働者（約 15 万人）が、外国人家事労働者の公定休日である毎週日曜に、現地の公共圏（公園や公共施設等）にて多様な社会運動を行っている。

これらのインドネシア人女性は、主に社会インフラの限られた農村地帯出身のため、帰国後に継続して社会運動に携わるものはごく少数である。もしそうであれば、彼女らの社会運動の経験は、「いい思い出」として忘れ去られていくだけなのか？それとも、香港での社会運動経験で得たスキルやネットワークは、現在の生活に戦略的に生かされ、インドネシア社会をも変革しうるのだろうか？従って本研究では、この中で比較的研究の蓄積があるフィリピン人（主にカトリック）ではなく、2000 年以降に増加したゆえに先行研究が少ないムスリムのインドネシア人家事労働者を取り上げて、彼女らが移住国で社会運動に参加した結果、帰国後の本人の生活や価値観にどのような影響を与えるのかについて検証している。具体的には、香港にて移住家事労働者として働きながら社会運動グループに参加したインドネシア人女性 OB 約 100 名に対して聞き取り調査を行い、移民女性が社会運動に参加することの意義を包括的に評価し、移民女性のエンパワーメントの手段としての社会運動参加の有効性を検証しつつ、家事労働者の社会運動参加においては、どのような社会的サポートが有効かを考察したい。